

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	6 月	21 日	記入者	中川 崇
調査者名	石井	中西	橋詰	中川(崇)	

文化財名	飯降薬師の磨崖仏 (いぶりやくしのまがいぶつ)				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	2017年(平成29)年2月14日				
所在地	宇陀市室生向渕				
所有者 管理者	向渕(むこうち)自治会 西出上垣(にしでかみがいと)内				
員数	1基				
時代区分	飛鳥時代後半(7世紀後半)～奈良時代前半(8世紀前半)				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	堂の脇に、劣化無く綺麗に掲示されている。設置者は宇陀市教育委員会。				
公開	通常は非公開、宇陀市教育委員会を通じて自治会へ連絡することで拝観できる。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 (2011年に堂を改築したが、磨崖仏の状態はそれ以前から変わっていない)				
当面の課題	特になし。磨崖仏に特段の経年劣化無し(地元談)。保存するための堂も、約10年経っているが、雨漏りなど無く、漆喰も綺麗な状態を保っている。				
今後の課題	磨崖仏そのものは特に変化ないが、保存するための堂について、将来的に改築費用が心配という。2011年(平成23)の改築時は住民が全額負担した。				
その他 (由緒など)	奈良と伊賀を結ぶ旧伊勢街道沿いだったので、渕を眺めながら休息する地点だったかもしれない。伝承では、聖武天皇がお通り、ご覧になったという。橿原考古学研究所からも調査に来られ、菅谷文則が「日本最古だろう」「7世紀後半ではないか」と感嘆したという。毎年8月下旬に会式があり、その夜は提灯や屋台を出して、向渕区の夏祭り。西出上垣内は飯降薬師にて、西出下垣内は穴薬師にて、土曜・日曜交互に開催している。				
コメント	磨崖仏目前の田園が、埋め立てられる前は渕だった。向かい側の「龍王ヶ渕」と対をなしていたので「向渕」という地名になったという。絶景の休憩地だったかもしれない。なぜ「飯降薬師」という名なのか→後世になってから俗称されたようだ。この集落には「飯降(いぶり)」姓が多く在住(天理教本席の飯降伊蔵も出身)。磨崖仏は薬師如来ではないようだ(地元談)が「薬師」「薬師堂」と呼ばれている。近くの集落にも、地藏菩薩であるにも関わらず「穴薬師」と呼ばれている石仏があるので、地元薬師信仰があり結びついたのであるかもしれない。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	6月	21日	記入者	中川 崇
調査者名	石井	中西	橋詰	中川(崇)	

文化財名	飯降薬師の磨崖仏 (いぶりやくしのまがいぶつ)
------	-------------------------

南側 (磨崖仏を正面から)	南側 (堂の正面)
---------------	-----------



西側 (堂の左側)	東側 (堂の右側)
-----------	-----------



磨崖仏は普段、幕で覆われている	堂の落慶法要資料 (前回2011年) (前々回1950年)
-----------------	----------------------------------

